

2008年度主な国・地域別の取り組み

ジャパンファウンデーションでは外交政策や外交関係を踏まえながら、各国・地域の状況に即した国際文化交流事業を実施しています。2008年度は、日本にとって重要な近隣国である中国と韓国、さまざまな分野で関係が深い米国、日本ブラジル交流年を祝うこととなったブラジルなどを、交流を強化すべき国と位置づけたほか、外交上の必要性などを考慮して事業を展開しました。

中国 日中平和友好条約締結30周年にあたる2008年は「日中青少年友好交流年」に指定され、両国で官民を挙げてさまざまな文化交流事業が行われました。ジャパンファウンデーションでは未来を担う若い世代の交流にも従来から力を注いでいますが、2008年も中国の高校生の長期招へいなどの日中交流センター事業(p.27)や、若い世代に向けたコンサートを開催しました(p.8)。また、同年5月に発生した四川大地震の復興に日本の経験を活かした協力を行う事業を実施し(p.23)、文化交流を通じた災害復興への協力という新しいジャンルの事業を展開しています。

韓国 日韓交流事業を中長期的に強化することを目指してジャパンファウンデーションが立案した「日韓文化交流5カ年計画」(2006～2010年)のもとで、中堅指導者・専門家の交流を目指した知的交流会議(p.25)や、若者に向けた事業(p.33)を展開しました。

アジア諸国 「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)」は、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯の基礎を強化することを目的として、日本政府の拠出金によりASEANを中心とするアジア・大洋州の諸国から5年間にわたり、毎年6,000名程度の青少年を日本に招く事業です。ジャパンファウンデーションではこの事業の一翼を担い、日本語教師や日本語学習者の派遣・招へい(p.20,21)、あるいはさまざまな分野で活躍する人材の育成を目指した交流事業などを行いました。

米国 米国向け事業は、ジャパンファウンデーションにとって重要な位置を占めますが、2008年度も日米センター事業(知的交流・市民交流事業)を中心に、日本語教育事業、日本研究事業、文化芸術交流事業としてさまざまな事業を展開しました。具体的には、次世代の知日派、対日関心層を形成するための事業(米国若手指導者ネットワーク)(p.26)を実施したほか、日本語教育の拡充に向けて日本語教師向け研修会への支援や、日本語教育に対する理解と普及を促進する取り組み(p.36)を行いました。

ブラジル 日本人がブラジルに移住してから100周年にあたる2008年は「日本ブラジル交流年」として、両国で幅広い交流事業を行い、未来にわたって両国の結びつきを強めることが、日本とブラジル両国政府の間で合意されました。このため、ジャパンファウンデーションでは、大規模な現代美術展(p.8)や舞台公演、ポップカルチャーや食文化の紹介事業(p.37)などさまざまな事業を展開し、日本文化の多様な側面の紹介と、両国の交流の促進を図りました。

ジャパンファウンデーションはこのほか、ゲーテ・インスティトゥート(ドイツ)、ベルリン日独センター(ドイツ)、カサ・アジア(スペイン)、韓国国際交流財団、インド文化交流カウンシルなどの海外文化交流機関と連携し、各地の文化動向などの情報交換や、人材の交流、共催事業などを行っています。